

## 1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成21年9月10日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2875201705		
法人名	医療法人 八十嶋病院		
事業所名	グループホーム花の風		
所在地	神戸市西区伊川谷町有瀬566-1 (電話) 078-974-8741		
評価機関名	社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会		
所在地	神戸市中央区坂口通2-1-18		
訪問調査日	平成21年7月22日	評価確定日	平成21年9月10日

## 【情報提供票より】(平成21年6月18日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成16年8月10日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 7人, 非常勤 13人, 常勤換算 12.8人	

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2 階建ての	1 ~ 2 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	62,000 円	その他の経費(月額)	27,000 円	
敷金	有( 円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 500,000円 ) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	150 円
	または1日当たり		1,300 円	

## (4) 利用者の概要(6月18日現在)

利用者人数	17 名	男性	5 名	女性	12 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.2 歳	最低	69 歳	最高	98 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	八十嶋病院・西尾歯科医院・介護老人保健施設風と緑
---------	--------------------------

## 【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR明石駅(山陽電鉄明石駅)からバスで20分徒歩5分、車では第二神明大蔵谷インターから約5分の所にある、学園都市近郊に位置する2ユニット(18人)が共同生活できるグループホームである。ホームの周りは緑に囲まれており、四季折々の草木が咲き乱れ季節感を体感できる環境にある。医療法人が母体となっており、ホームへの往診も定期的実施されており、安心した医療体制の下で共同生活ができる。ベテランのホーム長ときさくな職員との日常における生活は、利用者にとっては快適なものとなっている。近くには公園や寺院があり、外出の機会を多く持つことができる。寺院のお祭りにも参加しており楽しんでいる。情勢の変化を踏まえ、終末期に対するホームの考え方を整理中である。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	食事を楽しむことの支援について、前年度は専門業者からの購入が主だったが、最近では週に2回はホーム内で利用者を交えて作るようにしており、様子を見ながら回数を増やすように検討中である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	職員全員で自己評価を行い、ホーム長が取り纏めている。職員が自己評価を実施する中で気付きもあり、感じたことを日頃の支援活動に生かせるようにしている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
	運営推進会議は概ね2ヶ月に1回開催されており、意見集約を行いホームの質向上に生かせるようにしている。会議を招集しても全員が集まるのが難しく苦労も多いが、定期的開催するように次回の会議(7月末)も招集を行なっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	家族会開催時や、家族が訪問した時に面談を行い、利用者の日頃の生活状況の話をすると共に、家族の意見や要望を聞くようにしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	地域の中学生のコーラス隊に来てもらったり、ボランティア団体によるフラダンスを披露してもらったり、また近くの寺院のお祭りに招待を受けたりと地域との付き合いの幅は広い。しかし、災害時に於ける近隣住民との連携は行なわれておらず、今後の課題である。

## 2. 第三者評価報告書

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念として「明るさ、優しさ、おらかさ」を掲げて、日々の利用者と接している。また、行動指針の中に「私達は入居者様にその地域で暮らす住民の一人として支援します」との文言の下で支援をしている。		ホーム独自の理念や行動指針が作成されており実践している。行動指針には地域に関する文言が記載されているが、理念及び行動指針の整理を行い、地域に根ざした理念作りが望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム長が職員会議で行動指針を職員に具体的に説明をし、支援の実践に向けた取り組みを行なっている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の小学校のコーラス隊やボランティア団体のフラダンスの皆様を訪ねてもらったり、近隣の寺院でのお祭りに出向いたりしている。地域でのイベントには必ず参加し、交流を図っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価を行い、ホーム長が集約するようにしており、ホームの質の向上に向け職員の意識は高い。過去の評価を整理して訪問者にも自由に見ることが出来るように、自己評価と共に玄関に置いてある。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>概ね2ヵ月に1回会議を行っており、利用者家族の意見やあんしんすこやかセンター職員のアドバイスを受けて、サービス向上に向けた貴重な意見として取り組みに役立てている。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>地域の連絡会は市役所の会議室を利用したり、利用者の手続き上の書類手続きの詳細について、必要に応じて市職員との連携を行っている。</p>		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月「花のたより」を他の必要書類と共に利用者宅に郵送している。「花のたより」には利用者の写真を掲載し、ホームへ立ち寄りことの少ない家族にも利用者の生活状況が分かりやすいようにしている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>夏祭り前には、家族会を開催してホームの日ごろの活動状況を報告しており、意見等あれば反映している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>不定期ではあるが職員とホーム長が面談し、職員の意見や要望を聞く機会を設けている。離職する予定のある職員には利用者との関係を少なくしていき、利用者との関係が穏やかに離職出来るように支援をしている。</p>		


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の年間研修計画は作成しており、運用している。また、法人内の研修会には職員全員が受けられるように配慮をしている。		年間研修計画は作成されているが、今後は各職員の段階に応じた研修計画の策定が望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に行なわれるグループホーム連絡会に参加をしており、最新情報を職員全員で共有している。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と共に体験してもらい、徐々に慣れてから利用出来るように支援している。「ホームに入居することは嫌だったが、入居したら快適だったので直ぐに慣れた」利用者もいた。空き部屋があれば、体験入居も可能である。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩と思い、日頃から接しており、喜怒哀楽を共有出来るようにしている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1.一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日頃の会話の中から利用者の望むことを感じとるように努力をしており、利用者本位となるように支援することを大事にしている。</p>		
<b>2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>月に1回の職員会議で利用者の課題についての話し合いをしており、日頃の気付き事項は連絡ノートに記載して職員間で情報の共有をしている。介護計画の変更等には、必ず本人及び家族の意見を反映している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>見直しの内容は、職員間でメモを作成し、必要に応じて随時見直しができるように配慮をしている。</p>		
<b>3.多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>通院は、法人の病院や家族の状況に応じて他の病院で受診し、送迎等の支援は柔軟に行っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>母体が医療法人であり、近隣に連携している病院もあり、通常は月2回の往診を行っている。かかりつけの医師に受診希望があれば、受診出来るように職員が支援している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>ホームが設立され5年目を迎えており、利用者の状態も重介護化してきているが、終末期に向けた方針がホーム長、職員全員で共有されているとは言い難く、ホームとしての方向性を模索している状態である。</p>		<p>利用者やその家族にも終末期に向けたホームの方針がはっきり説明出来るような方針を策定すると共に、職員全員で共有することが望まれる。</p>
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>書類等の個人情報は職員室内に適正に保管しており、職員以外は誰でも見ることが出来ない。職員の利用者に対する声かけは丁寧に行なっており、利用者のプライバシーには十分に配慮している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>買い物や散歩等、利用者のその日の体調を確認しながら、見守りを大切にした支援を行なっている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	開設以来、週に2回ホームで食事づくりを行っている。また、前回の第三者評価をきっかけにして、おやつづくりも定着してきており、食事を楽しむ場面が増えている。今後も利用者の状況等に配慮しながら、回数を増やしていけるよう考えている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現状は、週に2回入浴を行なうようにしているが、入浴を嫌がる利用者に対する対応が週に1回になることもある。手摺の追設を職員が提案しており、利用者が安心して入浴出来るようにホームとして設置する方向で検討中である。		入浴日を固定化することなく、利用者一人ひとりの希望に合わせて入浴ができるよう取り組むことが望まれる。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの出来ることを大切に、出来ることを支援している。利用者自身で体を動かすことが日常的に出来るよう、ボランティアにも関わってもらい支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くに公園やお寺があり、気軽に出かけている。食材の買い物には利用者が交代で出かけ、こづかいで自分の買い物も楽しんでいる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないようにしており、エレベーターも自由に利用している。外部に設置しているセンサーチャイムを利用して、見守りを行っている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>3日分程度の食材の非常食備蓄もしており、災害時の準備をしている。消防署の救急救命の研修にも積極的に参加している。</p>		<p>夜を想定した避難訓練や、職員が少なくなった場合の訓練を日頃から行なっておくことが望まれる。また、消防や地元住民が参加した訓練を行なうことが望まれる。そのためには、日頃からホームの存在を知ってもらえるように、より一層地域との交流を密にしておくことが望まれる。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量や水分量は記録しており、摂取量が少ないようであれば声かけを行い、十分な水分摂取になるように注意をしている。</p>		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングの共用空間は広く、ゆったり出来る大きなソファが置かれている。テラスにも椅子を置き、外部を見ながら語らうことも出来る。居心地の良い共用空間が作られている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者が家庭で使用していたものを持ち込むように、入居時に利用者や家族に説明をしている。仏壇を室内に持ち込んでいる利用者もいる。</p>		

 は、重点項目。